

ボンボン 時計展

文明開化の時を告げた時計たち

平成23年

会期 3月5日(土)~6月12日(日)

開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般 150円(100円)

高校生・大学生 100円(60円)

小学生・中学生 50円(30円)

※()内は20名以上の団体料金

※土曜日、こどもの日、国際博物館の日(5月17日~22日)は小・中学生は無料です。

休館日

3月7日、14日、22日、25日 4月11日、18日、22日、25日
5月2日、6日、9日、16日、23日、27日、30日 6月6日



狭山市立博物館

〒350-1324 埼玉県狭山市稻荷山1-23-1

TEL(04)2955-3804 FAX(04)2955-3811

<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/>



新

再生紙を使用しています。

ごあいさつ

明治時代、我が国は西洋諸国と肩を並べるために近代化を推し進めました。

そのひとつに、改暦があります。政府は、1872年(明治5年)12月3日をもって1873年(明治6年)1月1日とし、暦を太陰太陽暦から太陽暦へ、時刻制度を不定時法から定時法へと変えました。このことにより、不定時法の和時計の時代が終わり、定時法の時計の時代となりました。

その後、近代化が進むにつれ、人々の時間に対する考えは大きく変わり、西洋式の時計は生活のなかに浸透していきました。

こうした時代に「ポンポン時計」と呼ばれて親しまれた掛時計がありました。

今回の企画展では、この時代に生産され、今日まで日本の近代化を時代とともに見つけ続けたそのポンポン時計をご覧いただき、その形態や意匠の美しさ、メカニズムの巧みさ、あるいは文明開化への郷愁、ひいては時計という文明を創造した人間の知恵の奥深さに触れていただきたいと思います。

また、狭山市の時計産業の一部を紹介し、改めて「工業都市狭山」の認識を深めていただくとともに、時計の仕組みを知り、「ものづくり」の素晴らしさを味わっていただければ幸いです。

最後になりましたが、本企画展の開催にあたりまして、多大なご協力を賜りました関係各位に対して心から感謝を申し上げ、開催のごあいさつといたします。

平成23年3月 狹山市立博物館

お江戸日本橋七つ立ち — 七つって…なに? —

平成23年

日時 3月27日(日) 14時00分から

講師 高橋光昭氏 前狭山市立博物館館長

場所 狹山市立博物館 研修・講義室

定員 60名 (受講希望の方は3月17日(木)午前9時から電話でお申し込みください。)

※ご来館の際は電車・バスのご利用が便利です。



西武池袋線「稻荷山公園」駅から徒歩約3分

西武新宿線「狭山市」駅西口からバス稻荷山公園駅行終点下車徒歩約3分

圏央道狭山日高インターから車で約15分

ボンボン 時計展

文明開化の時を告げた時計たち

平成23年

会期

3月5日(土)~6月12日(日)



狹山市立博物館

再生紙を使用しています。

ごあいさつ

明治時代、我が国は西洋諸国と肩を並べるために近代化を推し進めました。

そのひとつに、改暦があります。政府は、1872年(明治5年)12月3日をもって1873年(明治6年)1月1日とし、暦を太陰太陽暦から太陽暦へ、時刻制度を不定時法から定時法へと変えました。このことにより、不定時法の和時計の時代が終わり、定時法の時計の時代となりました。

その後、近代化が進むにつれ、人々の時間に対する考えは大きく変わり、西洋式の時計は生活のなかに浸透していました。

こうした時代に「ボンボン時計」と呼ばれて親しまれた掛時計がありました。

今回の企画展では、この時代に生産され、今日まで日本の近代化を時代とともに見つめ続けたそのボンボン時計をご覧いただき、その形態や意匠の美しさ、メカニズムの巧みさ、あるいは文明開化への郷愁、ひいては時計という文明を創造した人間の知恵の奥深さに触れていただきたいと思います。

また、狭山市の時計産業の一部を紹介し、改めて「工業都市狭山」の認識を深めていただくとともに、時計の仕組みを知り、「ものづくり」の素晴らしさを味わっていただければ幸いです。

最後になりましたが、本企画展の開催にあたりまして、多大なご協力を賜りました関係各位に対して心から感謝を申し上げ、開催のごあいさつといたします。

平成23年3月 狹山市立博物館

ご協力いただいた方々

本企画展の開催にあたり、次の方々や機関にご協力を賜りました。
心よりお礼申し上げます。(順不同、敬称略)

小野寺 昭 鈴木 亮一 鈴木 三義
シチズンマイクロ株式会社



① 装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高91

凡 例

1. 本書は、平成23年3月5日(土)から6月12日(日)までを会期とする企画展「ボンボン時計展—文明開化の時を告げた時計たち—」のパンフレットである。
2. 図版は展示資料の一部であり、展示資料は会期中に展示替えを行う場合がある。
3. 図版の番号は、展示番号と同じである。ただし、展示の順序とは必ずしも一致しない。
4. 図版は展示番号、型式・種類、製造元、国名、年代、寸法(高さ)の順で記載し、寸法はセンチメートルを単位とした。
5. この企画展は、内出智美、大谷武志が担当した。



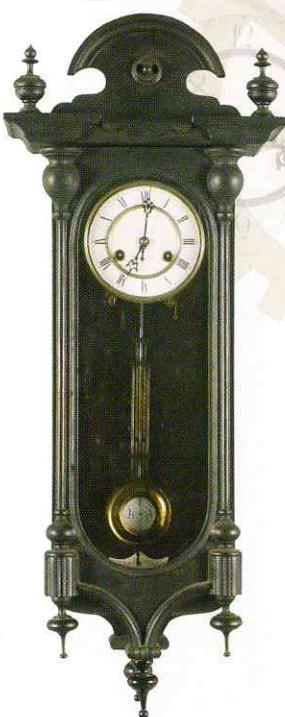
② 装飾
不明 日本(推定)
明治後期 高89



④ 装飾
不明 ドイツ
明治前期 高87



⑥ 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高87



⑨ 装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高84



⑭ 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高86



⑮ 装飾
精工舎 日本
明治後期 高94



㉕ 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高90



㉘ 装飾
不明 日本(推定)
明治後期 高75



④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高100



④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高98



④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高78



④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高89



④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高76



④〇 装飾
精工舎 日本
明治後期 高77



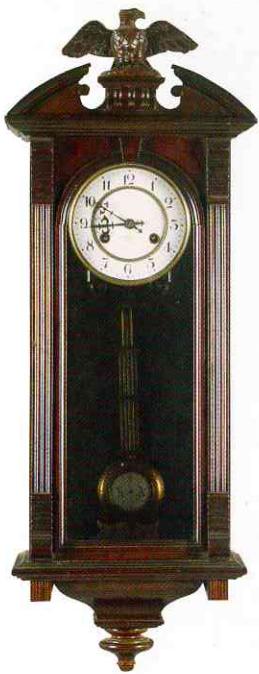
④〇 装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高88



④〇 五星装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高84



⑬ 装飾三尺
ハンブルグアメリカン ドイツ
明治中期 高119



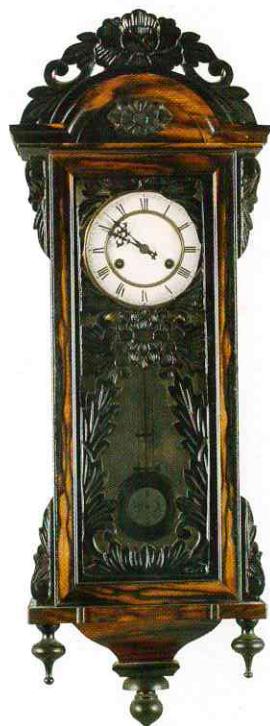
㉖ 鶯飾り装飾
精工舎 日本
明治後期 高78



㉗ 馬飾り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高108



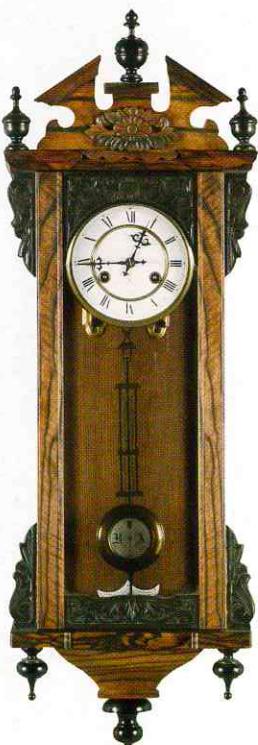
㉘ 淚の雫
不明 日本
明治中期 高64



㉙ 黒柿彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高82



㉚ 黒柿牡丹装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高82



㉛ 黒柿装飾
ユンハンス ドイツ
大正期 高84



㉜ 黒柿装飾
精工舎 日本
明治中期 高71



黒柿装飾
④3 ユンハンス ドイツ
明治中期 高87



黒柿装飾
④9 不明 不明
明治後期 高90



黒柿装飾
⑤3 不明 不明
明治前期 高85



黒柿装飾分銅
⑦2 ユンハンス ドイツ
明治中期 高128



彫り装飾
③ ユンハンス ドイツ
明治中期 高90



彫り装飾
⑤5 ユンハンス ドイツ
明治中期 高90



黒柿彫り装飾
⑫ ユンハンス ドイツ
明治中期 高83



黒柿彫り装飾
⑤0 ユンハンス ドイツ
明治中期 高81



⑤ 黒柿彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高92



④ 黒柿彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高81



⑥ 黒柿彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高90



③ 黒柿彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高81



⑧ 黒柿彫り装飾
グスタフベッカー ドイツ
明治中期 高81



⑤ 黒柿総彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高90



⑩ 黒柿総彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高85



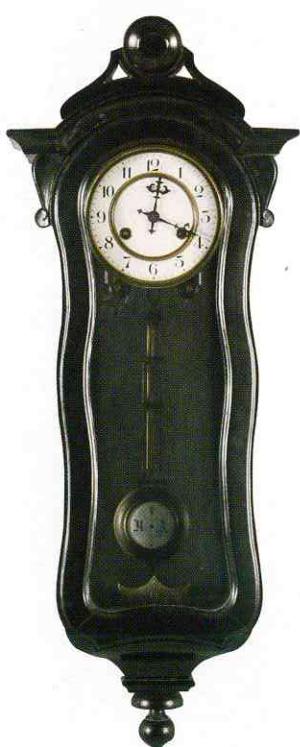
④ 黒柿総彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高91



⑤2 黒柿総彫り装飾
不明 不明
明治中期 高86



⑥7 黒柿総彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治前期 高84



⑯9 バイオリン型装飾
精工舎 日本
明治後期 高75



⑰1 バイオリン型装飾
不明 日本(推定)
明治後期 高84



⑱3 バイオリン型装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高87



⑲1 バイオリン型装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高78



⑦〇 バイオリン型彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高78



③〇 バイオリン型黒柿装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高88



②〇 バイオリン型彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高81



④〇 バイオリン型彫り装飾
ユンハンス ドイツ
明治前期 高79



⑨〇 小型バイオリン型
ユンハンス ドイツ
明治中期 高58



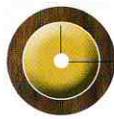
⑩〇 小型バイオリン型
ユンハンス ドイツ
明治中期 高54



⑪〇 小型バイオリン型黒柿
ユンハンス ドイツ
明治中期 高59



⑫〇 小型バイオリン型楓
ユンハンス ドイツ
明治中期 高55



小判型

koban



⑤ 小判型装飾
ユンハンス ドイツ
明治後期 高81

⑪ 小型小判型装飾
ユンハンス ドイツ
明治中期 高57



四つ丸型

yotsumaru



⑥ 四つ丸型小型
精工舎 日本
明治中期 高38

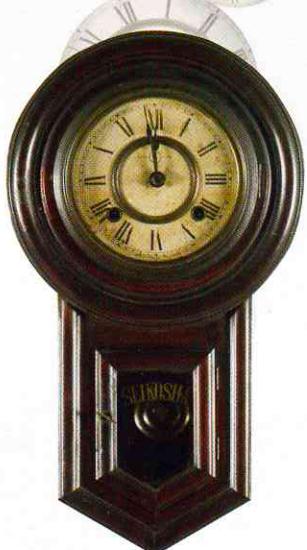
⑩ 四つ丸型
精工舎 日本
明治中期 高49

⑫ 四つ丸型
精工舎 日本
明治中期 高54



頭丸型

zumaru



⑩③ 頭丸型
精工舎 日本
明治～大正 高42



⑪⑦ 頭丸型装飾
精工舎 日本
明治～大正 高61



⑯⑤ 頭丸型
ハンブルグアメリカン ドイツ
明治後期 高31



⑩④ 剣丸型
精工舎 日本
明治～大正 高46



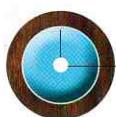
⑩② 頭丸型彫り装飾
東京時計 日本
明治前期 高56



⑩⑤ 頭丸型彫り装飾
精工舎 日本
明治中期 高75



⑩⑨ 頭丸型彫り装飾
不明 日本
大正 高87



八角型

hakkaku



④① 八角型
E.N.ウェルチ アメリカ
明治中期 高63



⑩⑤ 八角型
E.N.ウェルチ アメリカ
明治初期 高66



⑪⑫ 八角長型
不明 日本
大正 高42



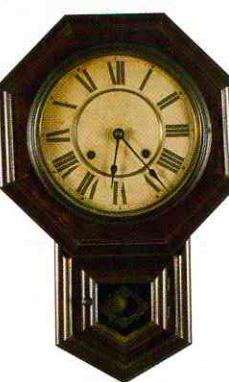
⑩⑧ 八角小型
不明 日本
明治～大正 高29



⑩⑩ 八角型
不明 日本
明治中期 高47



⑩⑬ 八角型
ニュー・ヘブン アメリカ
不明 高61



⑪⑯ 八角型
林市兵衛 日本
明治中期 高55



⑩⑨ 八角型
E.N.ウェルチ アメリカ
明治中期 高47



⑩⑫ 尾長八角型
愛知時計 日本
明治後期 高57



⑩⑭ 尾長八角型
愛知時計 日本
明治後期 高54



⑪⑪ 花ボタン八角型
吉沼又右衛門 日本
明治中期 高56



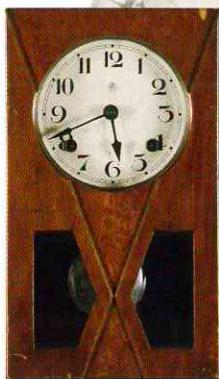
⑩⑫ 花ボタン八角型
イングラハム アメリカ
明治中期 高55

長方箱型

choho haco

R型

a-ru



⑯ R型
キンツレ ドイツ
昭和前期 高46

⑩ R型
エポック 日本
大正 高38

箱型
愛知時計電機 日本
昭和 高36



⑭ 長方箱型
エツチ・エム 日本
昭和 高45



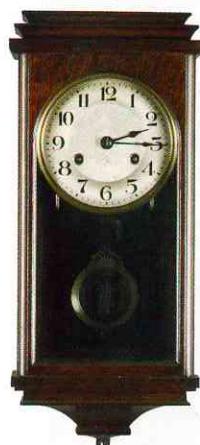
⑯ 長方箱型
精工舎 日本
昭和20年代 高57



⑪ 長方箱型
ユンハンス ドイツ
大正 高52



⑰ 長方箱型装飾
キンツレ ドイツ
大正 高52



⑧ 長方箱型
精工舎 日本
大正 高43



⑯ 長方箱型
精工舎 日本
大正 高47



⑯ 長方箱型
ユンハンス ドイツ
大正 高47

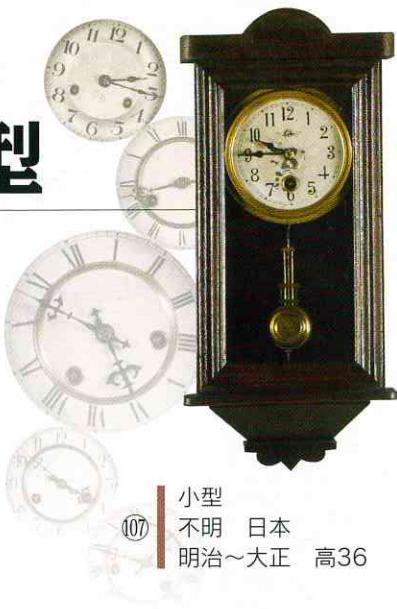


⑰ 長方箱型装飾
精工舎 日本
明治後期 高73

小型



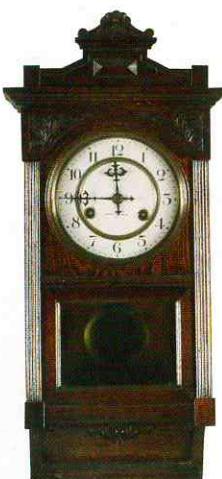
kogata



⑩7 小型
不明 日本
明治～大正 高36

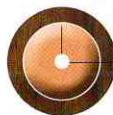


⑩8 小型硝子
精工舎 日本
大正 高45



⑩7 小型装飾
精工舎 日本
明治後期 高50

キッチンクロック



kitchen clock



⑩6 キッチンクロック
不明 日本
明治後期 高44



⑩7 キッチンクロック
ニューヘブン アメリカ
明治初期 高40



大型置時計

o-gata okidokei



(74) 大型装飾置時計
不明 西ドイツ
昭和30年代 高200



カッコー型 その他



(72) カッコー型
不明 ドイツ
明治初期 高65



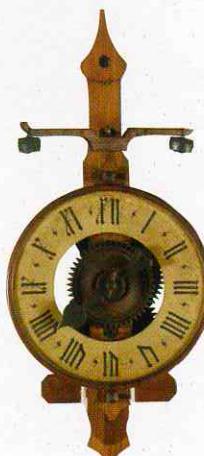
(73) カッコー型
不明 日本
昭和20年代 高51



(75) ふくろう型
水野時計製造所 日本
大正 高46



(116) 打ち出の小槌型
栄計舎 日本
大正 高53



(102) 初期ブラックフォーレストクロック(レプリカ)
不詳 ドイツ
現代 高40



「ボンボン時計展」—文明開化の時を告げた時計たち— 展示解説一覧

| No. | 名称 | 個々の解説 |
|-----|---------------|--|
| 1 | 装飾掛時計 | 全体に黒い塗装が施され落ち着いた雰囲気の時計。9か所に飾りの擬宝珠がつけられアクセントになっている。 |
| 2 | 装飾掛時計 | 日本製と推定されるが、機械、文字盤に製作所の刻印などが無く詳細は不明。上部に女性の顔の彫刻が付けられている。全体に細身に出来ていてすっきりとした佇まいの時計で品格がある。木目も美しい。 |
| 3 | 彫り装飾掛時計 | 全体が薄い黒漆の塗装で前面に彫刻板が組み込まれた重厚で豪華な雰囲気の時計。寺社の飾りのような装飾で人気が高い。 |
| 4 | 装飾掛時計 | ドイツ南部の古都、ローテンブルクの骨董店に飾られていた時計。ヨーロッパの中世の文化の香りがするデザインの時計で上部には中世風の雰囲気の飾りが付けられている。針の形にも特徴がある。 |
| 5 | 黒柿総彫り装飾掛時計 | 貴重品の黒柿の材料をふんだんに使い、全体に社寺の飾りを想わせる彫刻が施された豪華な雰囲気の時計で人気が高い。数も少なく高価な時計。 |
| 6 | 装飾掛時計 | 上部に旭日を連想させる飾りが付いた上品な形。全体のバランスも良い。 |
| 7 | 小型蝙蝠風掛時計 | 頭の飾りが蝙蝠を連想させる時計だが飾りの意味は不明。同タイプで大きな標準型の時計は時々みられるが小型のものは数が少なく珍しい。 |
| 8 | 長方箱型掛時計 | 文字盤は金属で作られ全体にすっきりとした形で座敷の柱などに掛け置くと引き立つ古時計。木目が美しい。頭部の形式が特徴。 |
| 9 | 装飾掛時計 | 琺瑯文字盤に数の少ない五星マークがつけられている珍品。6か所に木製の擬宝珠が付いた黒い塗装の時計で、上部には半円形の飾りがある。 |
| 10 | 黒柿総彫り装飾掛時計 | 上部の両脇に木製の擬宝珠が付かないタイプ。頭の鳳凰の飾りが見事。全体にまとまった形をした掛時計で黒柿の柔らかな味わいが魅力的。 |
| 11 | 小型小判型装飾掛時計 | 数が少なくコレクターに人気のある小判型だが、中でも小型は稀少品。曲線で構成された均整のとれた形には人を惹きつける魅力がある。 |
| 12 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 頭に鳳凰、前面の扉の周囲に唐草模様が彫刻され、琺瑯の文字盤が美しい。 |
| 13 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 頭部にボタンの花の彫刻、前面にも彫刻板がはめ込まれた細工の細かい見応えのある時計。全体のバランスも良い。 |
| 14 | 装飾掛時計 | 全体に黒漆の塗装で扉の両脇に柱の彫刻がつけられた日本的な雰囲気の時計。 |
| 15 | 装飾掛時計 | 全体に茶色の塗装で上部の前面に女性の顔がつけられている。当時の精工舎のカタログにベルリン型と記載された、堂々とした掛時計。 |
| 16 | R型掛時計 | 上部が橢円形の型をしていて、見ていると心が和む小型の掛時計。無駄のない意匠もよい。 |
| 17 | 黒柿牡丹装飾掛時計 | 貴重品の黒柿の材料を使って作られている。頭部の彫刻に牡丹の花が彫られていることから牡丹型とも呼ばれ、現存している数が多い。 |
| 18 | 黒柿装飾掛時計 | 頭に独特の飾りが付けられた黒柿で作られた時計。この時計は黒柿の文様が左右対称で美しい。 |
| 19 | バイオリン型装飾掛時計 | 全体に曲線で構成された掛時計で黒漆が塗られている。当時の精工舎のカタログに「ひさご」と言う名前で掲載されている。座敷に掛けるのに丁度良い雰囲気なので座敷時計とも呼ばれる。 |
| 20 | 長方箱型装飾掛時計 | 文字盤は琺瑯で作られ、頭部や四隅に簡単な彫刻があり全体にすっきりとした形で愛好者が多い。 |
| 21 | バイオリン型装飾掛時計 | 全体に曲線で構成された、現代でも通じるデザインの掛時計。文字盤や機械に製作所の刻印やマークが無く、生産地の判断が難しいが、機械を取り付ける台が精工舎のものと酷似しているので国産と思われる。 |
| 22 | 黒柿装飾掛時計 | 黒柿で作られ、全体の形から涙のしずくとデザインが似ているので和製の涙のしずくと言ってもよいのではないかと思われる。前面のガラスに描かれた文様も綺麗に残っている。 |
| 23 | バイオリン型装飾掛時計 | 全体に優美な曲線で構成されている。この時計は文字盤や機械にユンハンスの刻印やマークがある。姿、形の美しさから多くの人に好まれる古時計。 |
| 24 | バイオリン型彫り装飾掛時計 | 全体に施された彫刻は葡萄唐草の紋様できわめて優れた彫りになっている。彫りバイオリンは数が少ない上これほど見事な彫刻は例を見ない。逸品である。 |
| 25 | 装飾掛時計 | 全体に茶色の塗装が施されている。文字盤の数字と数字の間に百合をデザインした紋様が付けられた美しい古時計。 |
| 26 | 鶯飾り装飾掛時計 | 全体に茶色の塗装で、上部には鶯が羽を広げた飾りがある。日本の雰囲気の中に西洋を感じさせる、人気の掛時計。 |
| 27 | 小型装飾掛時計 | 全体に茶色の塗装。通常「筋硝子」と呼ばれている当時の精工舎の小型時計の変形。数が少ない。 |
| 28 | 小型筋硝子掛時計 | 全体にすっきりした長方形をしている。振り子が自転車のペダルとそっくりなのでペダル振り子と呼ばれている。無駄の無い意匠で人気が高い。 |
| 29 | 小型バイオリン型掛時計 | 小型のバイオリン型掛時計は標準タイプの時計に比べ数が少ない。可愛らしい形でどこに掛けても似合う時計。琺瑯文字盤。 |
| 30 | 小型バイオリン型掛時計 | このタイプの時計は、時計としての実用性とバイオリンをモチーフにした美しさ・芸術性を兼ね備えている。小型なので、どこにでも掛けられる便利さもあわせ持っている。 |

| | | |
|----|---------------|--|
| 31 | 小型黒柿装飾掛時計 | 頭に牡丹の飾りが付けられた黒柿で作られた時計。黒柿の文様が浮き出て美しい時計。全体のバランスも良い。 |
| 32 | 装飾三尺掛時計 | 三尺時計は数がきわめて少ない。この時計は機械や文字盤など全てがオリジナル。磁瑠の文字盤の裏の留め金が普通は4か所だが、この時計は3か所で機械の留め金部分と一致している。機械も正確でバロックの建築様式に通じる優れたデザイン。14か所の擬宝珠が全体を引き立てている。 |
| 33 | 小型バイオリン型黒柿掛時計 | 小型のバイオリン型掛時計は標準タイプの時計に比べて数が少なく、黒柿製はさらに稀少。小型で場所をとらず、黒柿の柔らかい木地が素晴らしい時計。磁瑠文字盤。 |
| 34 | 長方箱型掛時計 | 磁瑠文字盤に精工舎のマークが入っている。小型なので家庭で使う時計としては申し分ない。飾りが少なく全体にすっきりしている。 |
| 35 | 小型バイオリン型楓掛時計 | 小型のバイオリン型掛時計は標準タイプの時計に比べて数が少ないが楓の木で造られたものは極めて珍しい。黒柿製よりさらに稀少な珍品。 |
| 36 | 馬飾り装飾掛時計 | 頭部に馬の飾りを載せた堂々とした形の時計。振り子も金属の大振りのものが付けられ、ゆったりと時を刻む。黒の塗装で莊厳な雰囲気の古時計。 |
| 37 | 長方箱型装飾掛時計 | 全体に茶色の塗装で落ち着いた雰囲気の時計。全面扉の両脇の縦の線が繊細で美しい。キンツレ社の磁瑠文字盤の時計は数が少ない。 |
| 38 | 装飾掛時計 | 日本製と推定されるが機械に製作所の刻印などが無く詳細は不明。全体に細身にできていて、すっきりとした佇まいの時計で品格がある。黒柿の木目が美しい。 |
| 39 | バイオリン型黒柿装飾掛時計 | 黒柿でできた小型のバイオリン型は時折みられるが、標準型のバイオリン型は極めて珍しい。黒柿の木目が際立って美しい珍品である。 |
| 40 | 装飾掛時計 | 全体に豪華な飾りで、機械もきわめて正確に作動する。 |
| 41 | 八角型掛時計 | 当時の代表的な八角掛時計。周囲の金彩が綺麗に残っていて美しい。下部の振り子窓に馬の絵が描かれている。 |
| 42 | 頭丸型彫り装飾掛時計 | 文字盤の周囲に木目の細かい彫刻が施された見応えのある掛時計。日本の伝統的な様式で作られた古時計。 |
| 43 | 黒柿装飾掛時計 | 楕円形の頭部中央に飾りが付けられている。黒柿で作られ両脇に付けられた彫りのある飾りが美しい。 |
| 44 | 黒柿総彫り装飾掛時計 | 全体に彫刻のある総彫りになっている。扉の部分にはめ込まれた透かし彫りは黒柿では無く、薄い黒漆の塗装になっている。両脇の支柱も全体を引き立たせている。風格のある古時計。 |
| 45 | 頭丸型彫り装飾掛時計 | 文字盤には精工舎のマークがある。彫刻も見事。下部の振り子窓の上の横木が斜めに付けられているのが特徴。座敷に飾られていた大型の古時計。 |
| 46 | 装飾掛時計 | 全体の飾りの均整がとれており、西洋人好みの時計。イギリス、コツツウォルズ地方の田舎町の骨董屋の2階にひっそりと飾られていた。 |
| 47 | 装飾掛時計 | 金属板の外側に薄い青色をした磁瑠の文字盤が取り付けられ、振り子には自転車のペダルのようなペダル振り子が付けられた珍しい時計。ケースのデザインもあっさりとしていて、ヨーロッパ製と思われる垢ぬけた時計。 |
| 48 | バイオリン型彫り装飾掛時計 | 全体に黒漆の塗装で秒針がアクセントになっている。頭部には牡丹の花の彫刻が刻まれている。 |
| 49 | 黒柿装飾掛時計 | ケースは精工舎製と推定されるが、ウンハンス社製の機械が組み込まれている。精工舎製の機械の調子が悪くなり、修理に出されてドイツの機械に入れ替えたものではないかと推測される。堂々とした黒柿の箱が印象的。 |
| 50 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 黒柿で出来、全体に彫刻が施された掛時計。黒柿は明治時代から貴重な材料と言われ、当時値段の高かったドイツ製の掛時計を飾るのに相応しいとされていた。日本人好みの古時計。 |
| 51 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 扉の中に彫刻があるが、周囲には彫刻が無いタイプ。全体が黒柿の材料で作られ木目が美しい。 |
| 52 | 黒柿総彫り装飾掛時計 | 全体が黒柿の彫刻で飾られた見応えのある時計。寺社に見られる日本の伝統的な装飾様式の古時計。 |
| 53 | 黒柿装飾掛時計 | 文字盤に秒針が付けられた珍しい古時計。この当時の掛時計で秒針が付けられたものは数が少ない。文字盤にはトンボの形をしたマークが付けられている。 |
| 54 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 扉の周囲に彫刻があるが、中には彫刻が無いタイプ。全体が黒柿の材料で作られ木目が美しい。両脇に付けられた支柱も見事。 |
| 55 | 彫り装飾掛時計 | 全体に黒い塗装がされ、扉の全面は彫刻のある総彫りになっている。当時の社寺を想わせる飾りで、風格のある古時計。 |
| 56 | 装飾掛時計 | 全体にヨーロッパの香りが漂うデザインの時計。時計の周囲を飾る14個の擬宝珠が全体を引き立たせている。 |
| 57 | 装飾掛時計 | 頭部の飾りが左右対称で、全体の飾りの均整がとれている。飾ると重厚な雰囲気の時計。 |
| 58 | 装飾掛時計 | 当時の精工舎のカタログにパリ型と記載された時計。すっきりとしたデザインで、コレクターの人気が高い。全体のバランスが良く、飾って味のある時計。 |
| 59 | 小判型装飾掛時計 | 全体の形が楕円形で出来ていて気品のある古時計。これは戦前から戦後にかけてのNHKのラジオドラマで“ボーンボーン”と鳴る音が使われた時計。この時計の音が全国の家庭の茶の間に届けられた。前面の扉や周りの飾りが失われていたため復元された。ケースの後ろにはNHK効果部の所属を示す書き込みがある、由緒ある掛時計。 |
| 60 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 黒柿で作られた時計で、周囲の彫りが良く出来ている。古時計の味わいが深く風格がある。 |
| 61 | 長方箱型掛時計 | 全体にヨーロッパの香りが漂うシンプルなデザインの古時計。文字盤は金属板でできていて、整った形をしている。 |
| 62 | 長方箱型掛時計 | 当時一般の家庭で使われていた標準的な形をした時計。全体のデザインが直線で構成されている。機械も正確で精工舎の技術の高さがうかがえる。 |

| | | |
|-----|------------------------|---|
| 63 | 黒柿彫り装飾掛時計 | 黒柿の見事な彫りが施されている。全体のバランスがとれた古時計。 |
| 64 | 装飾掛時計 | 全体に大振りに出来ている。扉の両側の直線が美しい。琺瑯の文字盤の中心には蝶をデザインした金属の板がはめ込まれている。振り子にも彫り込みがある。 |
| 65 | 頭丸型掛時計 | 小型の時計で数が少なく、コレクターに人気がある。時打ちは無いが機械は正確。 |
| 67 | 黒柿総彫り装飾掛時計 | 黒柿の見事な彫りが全体に施されている。頭の鳳凰の飾りの彫刻も見事で、これ1台あれば古時計の世界が満喫出来る最高の時計。 |
| 68 | 黒柿彫り装飾掛時計 | この時計は、彫りが繊細で優れているのが特徴。頭部には狐が彫られている。 |
| 69 | 五星装飾掛時計 | 現存する数が少ないユンハンス社の五星時代に作られた時計。全体の塗りも見事で、調和がとれていてどこに掛けても似合うデザインの時計。 |
| 70 | バイオリン型装飾掛時計 | 朱色の漆で塗装され、中には彫刻の彫り板が入った珍しい時計。 |
| 71 | バイオリン型装飾掛時計 | 全体の形が曲線になっていて優しい雰囲気の古時計。バイオリン型の中でも数の少ない茶漆で塗装されて品格があり見事。機械も数の少ない五星時代のもので文字盤と機械に五星マークがある。 |
| 72 | 黒柿装飾分銅掛時計 | 波紋が美しい黒柿の材料で作られた大型の時計で、2本の分銅で動かす。長針と短針の飾りも美しい。当時としては珍しい秒針がついた。風格のある大型の古時計。 |
| 73 | 鳩型掛時計 | 手の込んだ作りになっている鳩時計。3本の重りのうち、1本は時計を動かし、1本は鳩の声を出してときを告げ、もう1本は窓から人形が出てくる時の動力になっている。 |
| 74 | 大型装飾置時計 | 文字盤に西ドイツ製と記されていて、ベルリンの壁が撤去される前の東西冷戦時代に当時の西ドイツで制作されたもの。定時のほか15分ごとにウエストミンスター・チャイムが鳴る。 |
| 75 | 大型装飾置時計 | 全体に鉄の飾りで構成された大型の時計。文字盤にはドイツ製の記載があるが、製作所や時代は不明。1800年代の古時計を模して第二次大戦後に作られたものと推定される。 |
| 76 | 四所打ち置時計 | 箱の内部の振り子で動く構造の置時計。全体の形がバランス良く整っている。15分ごとにチャイムが鳴る。 |
| 101 | ふくろう型掛時計 | しっぽ部分が振り子。振り子に運動して、目が左右に動く。時報は「ホーーー」と鳴き、口ばしが動く。 |
| 102 | 初期ブラックフォーレストクロック（レプリカ） | オリジナルは1650年頃の作と思われ、歯車が木製。こういった時計は、ドイツの森林地帯の農民が、雪の多い冬の農閑期にノコギリやナイフ等で作ったと言われている（春になると時計行商人達がヨーロッパ各地に売り歩いた）。 |
| 103 | 頭丸型掛時計 | 小型時計には珍しく、文字盤の直径が6インチ（約15.2cm）ある。 |
| 104 | 剣丸型掛時計 | 箱の下部特徴があり、その曲線と直線のバランスが魅力。基本的には頭丸型だが、この特徴により剣丸型とも呼ぶ。 |
| 105 | 八角型掛時計 | 振り子窓の部分が上部八角形の部分と比べて短いので、（頭でっかちという意味で）補助型時計とも呼ばれる。 |
| 106 | 四つ丸型掛時計 | 4つの円型から構成されているので、四つ丸時計と呼ばれる。またその形から“だるま時計”とも呼ばれる。4つの円型は木製で、うるし塗りが一般的であるが、これは真鍮板で作られていて、 |
| 107 | 小型掛時計 | 小型時計は掛時計の中でも数少ないが、これは超小型でさらに希少である。しかし中の機械はオモチャのような安易なものではなく、普通の時計同様しっかりできている。 |
| 108 | 八角小型掛時計 | 八角尾長時計の超小型のもの。 |
| 109 | 頭丸型彫り装飾掛時計 | 振り子が長いので、より正確に時間を刻める。 |
| 110 | R型掛時計 | 振子窓ガラスに色ガラスを使って、モダンな雰囲気を出している。 |
| 112 | 八角長型掛時計 | 円形をたて長にした小判型時計は見かけるが、八角形をたて長にしたものは極めて少なく、珍しい。 |
| 113 | 八角型掛時計 | この形の時計は、明治中期～後期に製造された最も一般的なものである。 |
| 114 | 長方箱型掛時計 | 昭和時代になると、装飾が単純化し、実用性が重視されたため、前の時代の時計よりも箱はシンプルになった。 |
| 115 | 箱型掛時計 | シンプルなデザインながら、美しさがある時計。 |
| 116 | 打ち出の小槌型掛時計 | 「1時」「2時」・・・の表示を「1万両」「2万両」と表示して、打ち出の小槌のありがた味を表現している。針（長針・短針）は竹製で、振り子は後補（レプリカ）。 |
| 117 | 頭丸型装飾掛時計 | 円形、方形、台形をうまく組み合わせた美しいデザインが特徴。 |
| 118 | 装飾掛時計「涙の零」掛時計 | アメリカ・アンソニア社製と同型のレプリカ。日本製のものは、コレクターに人気がある。 |
| 119 | 八角型掛時計 | 振り子窓のガラス絵の馬が美しい。明治時代の日本製のものにも、ほとんど同型のものがあるが、馬の向きが逆である。 |
| 120 | 八角型掛時計 | 八角形の時計部分と振り子ケースの間に装飾がある。振り子ケースの馬のガラス絵も美しい。 |
| 121 | 花ボタン八角型掛時計 | 八角形の周りに金箔をはっており、華やかさを出している。長針・短針のデザインも古い時代を感じさせる。 |

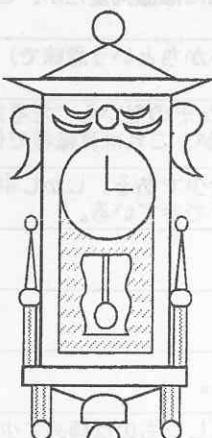
| | | |
|-----------|---------------------|--|
| 122 | 尾長八角型掛時計 | 振り子が長いので、より正確に時間を刻める。振り子窓のガラス絵が美しい（梅にウグイス柄）。 |
| 123 | 八角型掛時計 | 文字盤の直径が12インチ（約30.5cm）というのは、明治時代に製作された時計の文字盤サイズとしては最大。一般的の直径サイズは10インチ（約25.4cm）、または8インチ（約20.3cm）であった。 |
| 124 | 尾長八角型掛時計 | 文字盤は直径8インチ（約20.3cm）、振り子の窓ガラスの絵が見どころ。 |
| 125 | 四つ丸型掛時計 | その形から“ダルマ時計”とも呼ばれる。この時計のように左右の小さな円が後（奥）まで筒状になっているデザインは“本四つ”とも呼ばれる。 |
| 126 | キッチンクロック | 置時計、掛時計としても使える。もともとはアメリカでキッチン棚に置く時計。※ホースマーク |
| 127 | キッチンクロック | アメリカで、キッチン（台所）の棚に置く時計。目覚まし時計は1日巻き。ガラス絵が美しい。 |
| 128 | カッコー型掛時計 | 時刻になると窓から鳥が出てくる。この時に2種類のふいごが動いて、「カッコー、カッコー」と時報を告げる。日本製のカッコー時計も多く製作された。時報が「ホッホー、ホッホー」とも聞こえるので鳩時計とも呼ばれるが、カッコー時計というのがオリジナル。 |
| 129 | 長方箱型掛時計 | 全体に整った型をしていて、どこに掛けても似合う時計。小型で場所をとらないため人気が高い。磁石文字盤。 |
| 130 | 四つ丸型小型掛時計 (姫ダルマ) | 製造当時、四つ丸型は一般的な時計のスタイルだったが、小型のものは珍しく、特に「姫ダルマ」と呼ばれた。【製造：精工舎（日本）、明治後期、高さ38cm】 |
| 131 | カレンダー八角型掛時計 | カレンダー機能を持ち合わせた、珍しい時計。【製造：不明（日本）、明治中期、高さ58cm】 |
| 番外 (1) | | ①時計に模した花入れ（大正時代）。※本物の時計は高価だったので、時計型の壁掛け用の花入れが作られたと思われる。 ②真鍮製のティースプーンは、イギリス製の紅茶用スプーン。 |
| 番外 (2) | | ①小さなゼンマイ式の時計は、子ども部屋に飾られたと思われるもの。 ②皿時計は、ゼンマイ式のテンプ時計（ドイツ製：明治～大正頃のもの）と電池式（日本製：現代）を展示。 |
| 番外 (3) | | 掛時計（柱時計）の鍵は、ほとんどが同じ内径なので、ひとつあればほとんどすべての時計に対応できる。（ごく古い時計の一部には、内径のやや大きいものも例外的に存在する。） |

注)展示番号66、111の時計は、パンフレットには掲載されていますが、都合により展示しておりません。

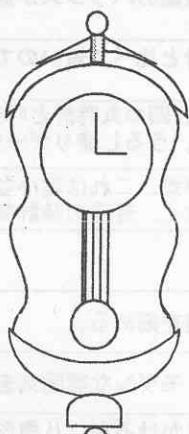
なお展示には、展示番号130「四つ丸型小型掛時計」と展示番号131「カレンダー八角型時計」を追加しました。

注)展示しております時計の製造元は時計の機械部分であり、ケースは一部を除き日本で作られたものです。

参考：主な掛時計の形

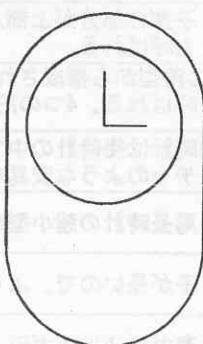


装飾

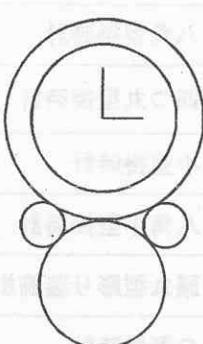


バイオリン型

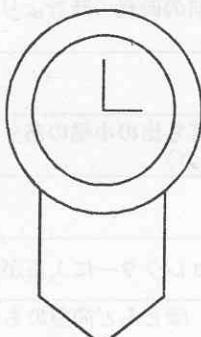
曲線の多いデザインや振り子の柄などでバイオリンに見立てている。



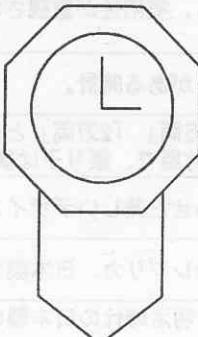
小判型



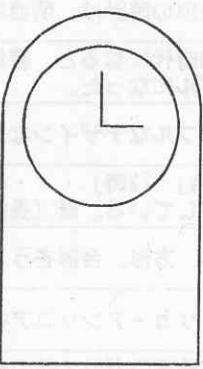
四つ丸型



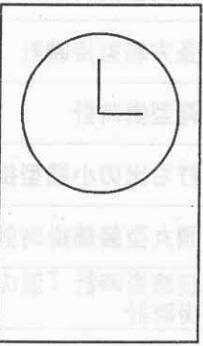
頭丸型



八角型



R型



長方箱型